

[活動報告]

市民フォーラム
C20200 日本機械学会認定「機械遺産」のポスター展示
(技術と社会部門, 年次大会実行委員会共同企画)

特別企画
W20100 産業考古学シリーズ
W20200 戦後の技術開発史を語る
P00100 北海道の機械遺産(企画理事会, 機械遺産委員会共同企画)

2015年度年次大会における『技術と社会部門』関連の企画について

もと関西大学
緒方正則

2015年度年次大会が9月13日(日)から16日(水)の4日間、北海道大学工学部で開催された。北海道大学といえば、著者は40年前の学生時代に北海道支部講演会で研究発表したことがあり、その後2回の全国大会(現在は年次大会)に参加・発表した経験がある。前回の開催では台風直撃で講演会場の教室の窓ガラスが強風による倒木で破損するというハプニングがあったことが思い出される。観光スポットである農学部のポプラ並木もすべて倒れたほどで、強烈な印象が残っている。今回は幸いにも学会期間中の気候は穏やかであった。今年度の年次大会において、技術と社会部門として標記4件が企画された。

市民フォーラムでは、毎回年次大会実行委員会との共催で好評の、「認定機械遺産のポスター展示」である。2015年8月7日の「機械の日」に認定された最新の認定を含め、計76件がカラースクリーンとパネルで展示された。今回は、総合受付の場所の制約から少し離れた場所に展示されたため、例年よりは見学者が少なかったようである。



「機械遺産」のポスター展示 (フロンティア応用科学研究棟2階)

特別企画では、今回初めてとなる企画理事会との共同企画「北海道の機械遺産」が9月15日に開催された。北海道の「機械遺産」は、前記の「機械遺産のポスター展示」全76件中4件が認定されている。それらは、No. 32 札幌市時計台の機械装置(2009年)、No. 35 ロコモビル(国内最古の自家用乗用自動車)(2009年)、No. 44 青函連絡船及び可動橋(函館側は摩周丸, 2011年)、No. 62 「土の館」－北海道の土作りとトラクターの博物館－(2014年)である。最初に部門に設置されている機械遺産委員会の副委員長 小野寺英輝君が「北海道遺産」と併せて北海道の「機械遺産」における哲学やキーワード、認定の実際について講演し、続いて上記4件から札幌市時計台長の門谷 陽氏と土の館館長 田村政行氏がそれぞれ認定された「機械遺産」に関して、来歴や保存状況などを詳細に講演された。



特別企画「北海道の機械遺産」(工学部B棟2階オープンホール)

部門単独の特別企画は毎回恒例であるワークショップ「産業考古学シリーズ」と同「戦後の技術開発史を語る」が9月14日に開催された。元産業考古学会会長で本会会員(2003年度部門業績賞表彰)の川上顕治郎氏によれば⁽¹⁾、「産業考古学シリーズ」は2003年度年次大会(徳島大学)から始まり、「戦後の技術開発史を語る」は第73期通常総会講演会(1996年, 日本大学 生産工学部・習志野)より始められている。2008年以降の開催実績を含めると、「産業考古学シリーズ」は2015年度までの13年間で講演12件・パネルディスカッション1件、実物展示運転会1件が行われている。また「戦後の技術開発史を語る」では、20年間で計36件の講演が行われている。開始創成期には1回につき複数の講演が行われている。

2015年度の「産業考古学シリーズ」は、会田理人氏(北海道博物館)が「札幌器械場の水車動力機械とその由来」について自身の渡米調査結果をもとに講演され、技術移転とその運用の実際について討論が行われた。



ワークショップW20100,W20200における一コマ(情報科学研究科棟2階)

「戦後の技術開発史を語る」は、石井幸孝氏(元九州旅客鉄道)が「戦後ゼロから出発したディーゼル動車王国づくり」と題して、自身が国鉄時代に取り組まれたディーゼル動車(機関車)の設計・製作における苦労談や、その後の技術者・経営者としての体験や教訓を講演された。日本は1968年にイギリスを抜き、5,000両を有する世界一のディーゼル動車王国となったことは、一部の「鉄チャン」以外には知る由もないことであった。

さて、2016年度年次大会は九州大学の新キャンパスで開催される。九州には多くの産業遺産や世界遺産に加えて「機械遺産」が76件中10件認定されている。来年度もこれら二つのワークショップが企画され、九州の特色ある産業と技術の系譜が熱く語られることを期待したい。

文献

(1) 川上顕治郎, 技術と社会部門企画「WS戦後の術開発を語る」と「WS産業考古学シリーズ」の記録, 日本機械学会誌, 110-1061, (2007. 4), pp. 280-281.

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.33

(C)著作権:2016 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門